

2月定例会 予算案に対する反対討論本会議 江上博之議員(3月19日)

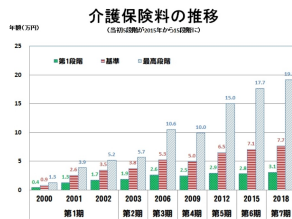
安倍政権の悪政からの防波堤として ムダな事業をやめ市民の暮らしを守る市政に



3月19日に2018年度予算案の採決が行われ、江上博之議員が、「安倍内閣の悪政の防波堤となるべきとき、さらに暮らしを厳しくする予算案になっている」として反対討論を行いました。概要を紹介します。

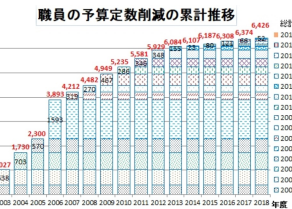
介護保険料値上げで 高齢者を苦しめる

予算案は、介護保険料を値上げ、住民税非課税の高齢者にも年間約6000円の値上げを押し付けます。



人件費削減で、公立保育園や幼稚園を 廃止、保育園や学校給食を民営化など

「最大の行政課題は子どもと親への総合支援」と言いながら、公立保育園や公立幼稚園の廃止、図書館機能の縮小・民営化、公立保育園の民間移管や小学校給食民間委託、生涯学習センターの民間への委託などがすべて人件費削減を目的に強行されることを指摘し、行政責任を放棄し、低賃金労働者、非正規労働を増やすことは許されないと批判しました。



金持ち優遇の市民税減税はやめよ

予算では大企業や大金持ち優遇の市民税減税で約121億円の税収不足が市民サービスを後退させています。2019年度以降の法人市民税減税を廃止する提案がされ、江上議員は「法人市民税減税の廃止は評価しますが、廃止による税金の増収分は、市民生活向上に使うべきであり、個人市民税減税も廃止する」ことを求めました。

市民合意のない大型開発は必要ない

江上議員は、大型開発の推進について「公共施設の目的、市民にとっての必要性、財政のあり方など、市民合意もなく、強引に進めようとしている」として、以下の具体例を示しました。

天守閣は木造化を急がず耐震化を

名古屋城天守閣木造化について、バリアフリー実現のためにはエレベーターしかないのに「史実に忠実な木造化」にこだわりエレベーターと言わない、特別史跡の「本物」である石垣の保存にむけたしっかりした調査が必要なのに木造復元計画を急ぐ予算を提案、現天守閣の

収蔵品をどうするかの見通しもない、建設費を入場料で賄うために50年間も入場者が346万人も続くことを想定しても2016度192万人で7億4600万円の入場料で試算しても建設費などを賄うことができず、入場料の変更や民間移管で収支を図る計画です。

江上議員は「無理な計画は見直し、100年先の見通しを持った施設にするためにも、急いで木造化でなく、現天守閣の耐震補強、老朽化補強を行い、エレベーターの改修や博物館機能の充実で、名古屋城へ行けば、名古屋の歴史、未来、名所がわかる情報発信施設にする」ことを提案しました。

疑惑のリニア工事は真相解明を

リニア建設を巡る大手ゼネコンによる談合事件ではJR東海の問題も報道され、名古屋市の外郭団体(まちづくり公社)が用地買収しています。江上議員は「談合事件の全容が明らかになるまで工事を中止する」ことを市がJR東海に求めることを提案しました。リニア開業を前提にした名古屋駅周辺開発では、わかりやすい乗り換えやバリアフリー化は必要ですが、巨額な事業費は鉄道事業者に応分の負担をするよう求める姿勢が弱いことを指摘しました。

巨大地下通路より歩道の拡幅で賑わいを

笹島交差点南からささしまライブ地区への巨大地下通路整備について、歩道を拡幅すれば地下通路の必要性はないと指摘してきましたが、出入り口協議の難航で着工のめどが立っていません。河村市長も、「地下道に人を歩かせるより地上を歩いたほうがいい」と報道されています。

新たな国際展示場は必要ない

空見地区への国際展示場建設の必要はなく、愛知県も事業可能性がなく、具体化できないので賛同することはできないと表明しているのに、河村市長はさらなる国際展示場の場所を求めて検討するための予算を計上しました。江上議員は「これ以上の国際展示場建設は断念すべき」と指摘しました。

組替え案の立場に立って暮らしを守れ

敬老パスの上飯田連絡線利用拡大が前進しました。市営交通以外への利用の第一歩です。江上議員は、「予算組替え案の立場で市政運営を行い、名古屋市自ら目標をもって10年、20年、50年先をいらんで、新年度予算の編成をする」ことを指摘し、予算案に反対しました。減税日本ナゴヤも自民・民主・公明も黙って賛成しました。